

またあじづ

題字 宗像 精

第84号
令和6年3月3日
発行者
福島県公立学校
退職校長会長
北会津支部一
齋藤秀一



副支部長 菊池芳次

「再会」と「再開」

新型コロナウイルスの蔓延により不要不急の外出自粛、諸行事の縮小、中止等の措置がとられ、人と会う機会が大変少なくなりました。昨年五月の五類への移行によって、人の動きも少し活発になってきました。このような中、嬉しい、楽しい「再会」「再開」が有りました。

十月、中学校の合同クラス会を開催しました。令和二年に計画しましたが、コロナにより中止したものです。集会等の開催への抵抗が少なくなったこと、古希

を迎え、今後会う機会も少なくなるだろうからと決定しました。母校が最後の勤務であったため還暦・六十五歳・今回と、連続して事務局を担当しました。三百七十五名の内、七十二名の参加でした。「元気」「変わらない」「何してる」「飲むよりも話を中心となる三時間でした。最後に校歌を合唱し、クラス毎に二次会も開催しました。後日、「有り難う」「良かった」「またね」との言葉をもらい、大変思い深い、楽しい「再会」でした。

「再開」は、県大会郡山大会です。郡山支部の会員の皆様には開催に向け、様々なご努力に感謝します。受付前後、休憩時間等、他支

部の会員と至る所で懐かしく話し合う姿が見られました。令和二年両沼大会がコロナで延期となり、三年に書面開催になりました。実行委員会に入り、会津は一つとして開催に向けて準備していたので、大変残念な思いが残っていました。郡山大会も一年の延期の後に、ようやく開催できました。内容が精選され、大変充実し、今後の県大会の在り方を示唆する「再開」となつたと思います。

新型コロナウイルスにより、ネットの活用、テレビ会議の普及が一層進み、諸行事や会議の削減、内容の精選が図られました。人々の活動にも大きな変化があり、時間をかけて移動し、直接会って話し合う必要もなくなってきました。しかし、「再会」「再開」を通して改めて、会って、直接話することの素晴らしさ、大切さが実感できました。

今後は、会員、役員の負担が少なく、無理なく、参加して楽しい、そのような会の運営を模索していきたいと考えています。

悠悠木彫り展

武田光弘



木彫りの仏像に出合ったのは平成二十七年に小野町立浮金小学校に赴任した時のこと。学区の酪農家の主人は七十代のおやじさん。玄関には薪ストーブが焚かれ、木の燃える匂いがどこか懐かしく、心まで温まる空間でした。お茶を飲みながら薪ストーブの回りを見ると優しいお顔の観音様や小さなお地藏さんが何十体も並んでいました。以来師匠を訪ね、薪ストーブの前で木彫りに取り組んでいる時間は至福のときでした。「こけしは顔が命」と聞いたことがあります。が仏像

も顔を彫るのがいつも難しく、特に目を彫るときは神経を使います。目は口ほどにものを言い、目の線一つで表情が決まります。木彫りをはじめから女性の化粧の仕方にも興味が出てきました。ある時、教え子が大病を患っていたとき、お地藏さんをあげました。今ではすっかり回復し元気に働いていますが、今でもお地藏さんに手を合わせてくれているようで、もう少し上手くなってから贈ればよかったと後悔しています。



木彫りに向き合うとき、無心で彫っている時間が好きで、ストーブの前でこつこつやっています。

父そして母

佐瀬 千代子



父は、七十九歳で亡くなった。私は、今、その七十九歳である。
感慨深いものがあり、無性に父母の昔を思い出す。

昭和三十七年一月十日、屋根にも届く程、雪の深い年であった。けたたましい電話のベル。受話器をとった母が蒼白になり、つぶやいた。「お父さんが、校長室で倒れた・・・」
父は、五十歳。下郷町の江川中の校長であった。第三学期の始業式で生徒に新年の訓話をした後、校長室で倒れたらしい。
何としたことか。二日後に東京で先生をしている姉

の結婚式が予定されていた。そしてその時、上の姉は、二月に第二子の出産予定。私と弟は三月に大学と高校の受験。
足がガクガクとした。
「お父さんは、助かる。姉弟力を合わせしっかり行動するように」と話し、母は、伯母とタクシーで雪道を急ぎ江川中へ向かった。
父は、脳出血であった。
三日三晩意識不明が続いたが、母の必死な看病で意識

を取り戻し、その後容態も安定してきた。左手足に後遺症が見られたが若かったこともあり会話も普通にでき、右手足も健全だった。
父は、一年後退職。恩給生活となった。母も福島女子師範学校卒業後十五年間荒館小に勤め、恩給生活になっていた。父と母の生活基盤がしっかりしていた事は、有難いことであった。
親の責任として子の将来の為に上と同様、私と弟も

大学に出したいというのが父母の強い願いであった。自分のことよりも、子の幸せのみを願う父母に涙し、早くていい先生になろうと思っただ。弟も、努力し、中央大学法学部に合格した。
父母は、毎日、静かに読書をしていた。父は、人生的論的な本を好み、母は、俳句・短歌を詠んでいた・・・。
遠い日の父母の頑張りも、今でも私の誇りである。

喜寿を迎えて

星 幸雄



春の総会時には、喜寿のお祝いをありがとうございます。喜寿を迎え、まだ若いっ

もりでいても体や生活の変化は隠せない。そんな七十七歳の日常の朝、趣味の一端を書いてみたい。
日課的には、朝六時頃から約三分の「仏前のおつとめ」から一日が始まる。朝食の後、新聞にサッと目を通し、七時に小学生の登校の安全見守りに出る。子どもたちの挨拶から一日の元気をもらう。家に戻り、カレンダーでその日の予定

を確認するが、空欄が多くなり、中で増えたものは、病院通いの予定だ。
趣味においても、歳を感じる事が多くなった。
好きな山登りは年々回数が減り、登る山も低い山となったが、頂上での達成感、爽快感は捨てがたい。体力テストの意味の年三回の磐梯山登山は続けている。
歳をとっても仲間とのゴルフは実に楽しい。「ボー

ルが飛ばなくなった」「ボールが見えない」と愚痴をこぼしながら、青空の下でプレーを楽しんでいる。
全県観光を目指した旅行は、新型コロナウイルスのため佐賀県が残った。昨年は、長距離運転転はこれが最後と決め、むつ市まで車を飛ばし、旧会津藩士の入植地「斗南ヶ丘」を訪れ、当時の藩士の苦難を偲び、墓前で手を合わせる事ができた。

現職時代、研究公開時の玄関を飾るために始めた菊づくりは、毎年「今年でやめよう」と言いながら今だにやめられない。
このように書くと、健康そのもののように思われるが、昨年は、高校の時のケガでの入院以来六十年振りに入院を経験し、点滴の落ちるのを見ながら、歳に合った健康管理の大切さを考える機会となった。

随想

あいづアーティスト応援プロジェクト

馬 場 泰

「若者が住みたい、戻りたい
 と思える面白いまちをアートで
 つくりたい・・・。」会津若松
 市には映画館や市立の美術館な
 どがなく、あまり面白いまちと
 はいえませんが。会津若松市立美
 術館建設推進運動は四十年以上
 続いています。若いアーティスト
 が気軽に作品発表できるギャ
 ラリーもあります。若者が地
 方に戻らないのは仕事がないこ
 ともありますが、まちが面白く
 ないということも大きな要因で
 あると言われています。このプ
 ロジェクトは、会津美術協会が
 主催し、アートでまちを面白く
 するために始めました。市立美
 術館建設推進のために、住民の
 アートに対する熱量
 を上げる場とも考え
 ています。

本プロジェクトの
 趣旨に賛同してくだ
 さる店舗は、半年で
 四か所になりました。
 カフェ&デリ・マル
 ク、キッチン瓦（ギャ
 ラリー清風楼）、ベ



キッチン瓦内「ギャラリー清風楼」

ストゴルフ若松、福西惣兵衛商
 店です。また、今までに個展を
 開催したアーティストの表現ス
 タイルも多彩で、アクリル画、
 水彩画、鉛筆画、銅版画、立体
 造形、木工作品などです。この
 プロジェクトの特色は、会期が
 約二か月間、会場費無料、作家
 が会場に常時在廊する必要がな
 い、店舗が販売代行するなどで
 す。店舗にとっては新たな客を
 呼び込むきっかけになるという
 ことで、大変好意的です。この
 作家と店舗にとってウィンウイ
 ンの関係となるプロジェクトが、
 末永く継続できるよう、さらに
 知恵を出し合いながら進めてい
 きます。

悠々ひろば

「悠々と認知」

酒 井 完

「もう十分働いた。これから
 は仕事を忘れ、悠々と趣味や旅
 行を楽しもう」と退職当時、強
 く思っていました。しかし、こ
 れまで地域の役割を果たしてこ
 なかったので、退職すると当然
 地域からの要請が数知れず、結
 局、在職時と変わらない毎日で
 ありました。それでも五年が経
 過すると、なんとか地域の多く
 の役割も終了し、やっと念願の
 悠々の毎日を謳歌しています。

ところが、私に物忘れ、認知
 の症状が頻繁に見られるように
 なったのです。印象的な事例は、
 車のエンジンを切り忘れること。
 数時間後エンジンがかかってい
 る車を見て愕然としました。こ
 れが一、二度ではないのです。
 最近始めたゴルフでも打数を忘
 れます。思い出すのが大変でゴ
 ルフが苦痛になっていきます。百
 三十も叩くのでこちらが原因か
 もしれません。

紙面が限られておりますし、
 恥ずかしいのでこれ以上、症状
 については省略いたします。
 この症状を改善したくて、認

知症につい
 て調べてみ
 た結果、驚
 きと納得の
 項目があり
 ました。



紹介しますと、認知症になり
 にくい性格は「責任感の強い性
 格・自制心のある性格・勤勉な
 性格」なかでも「責任感」「勤
 勉さ」が認知症の予防と大きく
 関連しているとのことでした。

なんと、私の性格である「責
 任感」「勤勉さ」の欠如、そし
 て、最近の惰性で行っていたよ
 うな多くの役割、その行動や意
 識が認知症を引き起こしている
 可能性が高いということがわか
 りました。私の認知の症状は起
 こるべくして起こったのです。
 まだまだ先が長い人生、日常
 の行動様式で改善できるなら改
 善したいと思えます。改めて、
 現在継続している活動全てにわ
 たり「責任感」「勤勉さ」を持っ
 て誠実に活動していきたいと決
 心いたしました。
 勿論、深酒はやめています。

現職・退職校長会 教育懇談会と懇親会開催

令和五年度現職・退職校長会教育懇談会は、十一月十八日、ルネッサンス中の島を会場として行われた。現職校長三十名、退職校長四十五名が参加した。教育懇談会のテーマは、「学校と地域が連携・協働して子供たちの成長を支えるために」であった。

前半は会津若松市地域教育コーディネーターとして、地域学校協働活動を牽引してこられた成田正良氏の講演が行われた。

講演は、成田氏の歌声で幕を開けた。さらに二人のゲストの話も織り込まれ、充実した講演となった。

《講演の概要》

一 協働活動を会津若松市に十年間民間会社で働いた後教員になった私は、地域と学校が共に教育を支えることの重要性を痛感していた。学社連携・学社融合等が提唱されたが、長続きしなかった。地域住民等の参



成田正良氏による講演

画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指す地域学校協働活動の取組を始めようとした時も、長続きはしないとされた。しかし、湊地区から始めた取組が、今では市内全域に広がり定着しようとしている。

地域学校協働活動の取組の良さは、地域と学校を繋ぐコーディネーターが橋渡し役として位置づけられていること、公民館がこの活動を支えていることである。運営会議も二か月毎に開催し、共通理解を図りながら活動を推進している。

二 地域学校協働活動の実際
増加する協働活動

令和三年実施回数三四八回
令和四年実施回数八四六回
延べ参加者数九六六六
延べ参加者数二二六一人

学校の要請が増えている。○多岐にわたる活動内容
・授業支援、総合的な学習支援、図書支援、新一年生支援、登下校の見守り、環境美化整備等の多岐にわたる。

三 活動の効果は絶大

・子供たちが地域住民と交流することにより様々な体験の場が増え、コミュニケーション能力が高まった。
・地域住民が学校を支援することにより、教員が授業や生徒指導に力を注ぐことができるようになった。
・地域住民が学校を支援することにより、地域の教育力が向上し地域の活性化に繋がった。地域住民の生きがいづくりや自己実現に繋がった。

四 分科会に期待すること

「地域学校協働活動を推進していく余裕が学校にはない」「学校のニーズに合うボランティアがいない」等、課題は多い。分科会でよい方向性を見出してほしい。

《分科会の概要》

後半の分科会は、中学校区毎に九つの班に分かれて行われた。地域学校協働活

動の現状や今後の方向性、そして、退職校長が支援できることについて活発な討議が繰り広げられた。

一 取組の現状

・生活科、総合、家庭科、毛筆、算数、読み聞かせ等の多岐にわたって支援に入っている。コーディネーターの働きにより活動が充実している。地域の方々の協力に感謝。

・ボランティアが入ること、学びに応じた支援ができる。子供たちも意欲的に生き生きと活動している。ボランティアも、子供たちから元気を貰い、生きがいになっている。教員も、支援があることで、安心して授業ができる。

・地域の人材が入ること、負担になるとの思いを持つ教員もいるので、意識改革も必要である。
・地域に貢献する活動も大切だと思ひ、運動会や敬老会に参加し、生徒自身がい経験になった。

・ボランティアの高齢化が進んでいる。地域の中で広くボランティアを募る仕組み作りも必要である。
・ボランティア同士の交流

も大切なので、コーディネーターがお茶等を準備し話し合いの機会を持っている。
・学校統合後も地域との連携を密にしていきたい。

二 課題と今後の方向性

・退職校長会の会員が協力できるための活動情報やニーズ情報の提供と支援。
・時代に求められる資質や能力を育てるための探究的な学びや、地域での体験活動の充実。
・未来を担う子供たちの成長を支え、地域の創生に繋がる双方がwin-winになる活動の推進。

※退職された校長先生方の力を是非お借りしたい。



分科会での活発な討議

《懇親会開催》

四年ぶりに懇親会が開催された。本音で語り合った後の宴は、お酒も進み会話も弾み、楽しい時間が流れていた。

学校へ行こう！

地域協働推進校

福島県立

猪苗代高等学校

校長 滝田勝彦

本校は、各学年
一クラス計三クラ

スの全日制・普通科高校であり、目指す学校像を「コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域特有の教育資源（農業、観光、防災等）を活用した探究的な学習活動を充実させるとともに、生徒一人一人のよさを引き出し、自己実現に繋げる学校」と定め、地域愛や協働する力、課題解決力などを育成するため地域との協働を通し、地域探究学習の充実に努めています。

具体的には、総合的な探究の時間において「猪苗代学」として地域の特色を生かし「農業・観光・防災」をテーマに、一年生ではフィールドワーク、二年生ではゼミ形式のグループ探究、三年生ではそれまでの活動をベースに個別探究に取り組んでいます。主な研究テーマとしては、「中ノ沢地区の活性化」「ウチダザリガニ（外来種）の活用研究」

「校内施設のリノベーション研究」「猪苗代湖の水質改善研究（菱の実の活用）」「湯ノ花の活用法」「会津伝統野菜の栽培と活用」などがあります。各種活動においては、猪苗代町役場、磐梯青少年交流の家、NPO法人猪苗代研究所、一般社団法人Bridge for Fukushima、陸上自衛隊、県立博物館等の機関・団体に協力を仰ぎ、その専門性を生徒たちの深い学びに活用させていただいております。なお、詳しい活動の様子は本校HPからX（旧Twitter）をご覧ください。

探究学習を通して、生徒には意欲や協調性、粘り強さ、コミュニケーション能力などの非認知能力や、学習発表会や猪苗代中学校での授業などにおける表現力・対心力の向上などの成長が感じられ、学校運営協議会委員や探究学習関係者、中学校教員など、本校生徒に関



学習発表会の様子

わった方々から高い評価を得ています。また、進路先の実績からも猪苗代を中心とした会津地域で貢献しようとする生徒の割合が増えていることを実感しています。

今後も地域の方々と連携・協働しながら、地域探究学習の学びを進路実現に繋げるとともに、地域や社会に貢献できる人材の育成に尽力してまいります。

地域とともにある学校づくりを目指して

磐梯町教育委員会
学校教育アドバンサー

佐藤 忠一

学校運営協議会について

磐梯町では幼小中一貫教育に取り組んでいる現状から町全体（四つの園学校）で一つの学校運営協議会（磐梯の教育運営協議会）として活動を進めている。継続して依頼してきた方もあるが、各園学校のPTA会長、区長会代表等は毎年変わる。そのため、今までの経緯や取組を踏まえて継続して進めていくことが難しく、活動が充実していなかった。

そこで、次のような取組を推進してきた。

一 熟議の開催

当事者意識を高めるため、熟議とは何かを知ってもらうため、保護者や教職員・地域住民が参加したワークショップ、園学校ごとのワークショップを開催した。今年度は、「子どものデジタル活用」に関するワークショップを開催した。

二 メンバーの人選

PTA会長に限定せず、複数年参加できる方を園学校から人選してもらった。今後は、充て職の人選をやめて運営委員の推薦でメンバーを決めていくように変えていきたい。

三 会の運営

町全体で学校運営協議会を進めてきた関係で、教育委員会が中心となって運営してきた。運営委員に主体的に関わってもらうために、運営や進行は委員長をはじめとした委員に移行した。

四 教育活動評価（アンケート）の項目検討

今まで項目については各園学校に任せていた。そのため、運営協議会で報告してもらっても比較しにくい

現状にあった。そこで、磐梯の教育の重点に沿った項目を設定するとともに、集計方法についても統一した。地域学校協働活動について 磐梯町では、学校でも家庭でもないサードプレイス（居心地のよい第三の場所）として「まなびときばんだい」があり、サンショウウオやカエルなど川の生き物調査、親子化学教室、星空観測会などのイベントを実施した。今年には町文化祭でスライムづくりなどのブースを中学生にやってもらおうとボランティア活動も始めた。地域学校協働活動は学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となって推進していかなければならないが、磐梯町ではまだ地域学校協働本部がない。今後、地域学校協働本部の設置と地域学校協働活動推進員の任命を通して、町で行っている様々な活動を体系化する必要がある。



町文化祭（中学生のボランティア）

福祉部の活動

学校視察

好天に恵まれた八月三日(木) 福祉部主催の「施設見学研修」が実施された。午前九時三十分、猪苗代町立猪苗代中学校集合、十二名の参加者が会議室に案内された。

齋藤支部長の挨拶と係からの説明を受けた後、宇南山教育長の挨拶、続いて横山校長から「学校要覧」を資料として学校経営ビジョンと新装なった校舎の概要について説明を受け、校舎見学に移った。



玄関前の野口英世像

教育目標に野口博士の遺訓を生かし、地域に学び、持続可能な未来を拓く人材の育成とあり、玄関に博士の胸像を置くなど国際的に活躍した博士への思いが感じられた。

また、ESDを教育の柱に、SDGの達成の取り組みが明示され、成果が期待される。

新猪苗代中学校は、東、吾妻、猪苗代三校が令和四年に統合、現在の生徒数三百名。近代的な校舎に生まれ変わった。標高五百二十メートルと寒冷地の校舎なので、内装が木材、地中熱ヒートポンプ、屋上の太陽光発電、センサーによる自



磐梯山を望む屋上で記念写真

動給水、自動点灯・消灯する照明など様々な工夫が施されている。百メートルトラックが取れる程の長い廊下、二階には、式典・学年集会・学習イベント等で使用できる多目的室が設置され、充実した施設となっております。雪国対応の施設設備を生かしたきめ細かな教育活動が期待される。

最後に質疑応答、川上副支部長の御礼の挨拶で閉会となった。

東北一！滝沢浄水場

十月十日、小雨降る滝沢浄水場。一箕中学校グラウンド南側から浄水場敷地内に入ると、サッカー場七、八

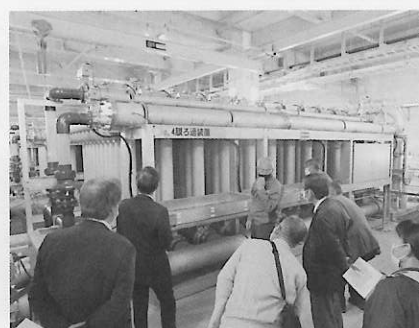
面はあるうかと思える広大な敷地が目に入ってきた。芝生が整えられ奥には太陽光パネルが整然と並ぶ。

まず事務室に案内され全体説明を受け見学がスタート。最初は東側の山の斜面にある「前処理棟」。大きなゴミや泥を取り除く原水調整池が設置されていた。



管理棟前から北側を望む。広い！

最後に「膜濾過棟」の地下。巨大なセラミック膜濾



東北一の浄水能力を誇る濾過装置！

過装置が四基。浄水能力は東北一。毛髪のなんと八百分の一の微細な不純物まで除去出来るという。処理スピードも速い。

市内一日の一人あたりの使用水量は二百ℓを超えるそう。令和五年は酷暑が続く近頃は水不足で苦しんだ。滝沢浄水場では緊急時、五日間は自力で稼働出来るという。ただ、それを超えれば八時間分しか貯水されていないと説明された。ふだん何気なく使用している水がどんなに丁寧に慎重に作られているのか、また災害等にどう備えているのか等、参加者一同、改めて水について考えさせられる一日となった。

一ノ瀬 直市

退職後、もう教職に携わることはないと思っておりますが、現在は高校卒業後に看護師を目指す看護専門学校で、これからの医療を支える看護師を育てるため、日々励んでいます。

宇川 守

旬を楽しむ生活です。春には山菜とり、夏は釣った魚を塩焼き、秋冬は干し柿干し芋づくり、そしてそば。日常の中で楽しみを見つけないが、健康に留意し、過ごしたいと思っています。

押部 秀隆

愛犬をお供に、季節の移り変わりを楽しむままな散歩。時にはお寺の掲示板で面白い辞世の句を見つけて立ち止まってみたり。どのような出会いがあるか、今年も楽しみみである。

菅家 進

おふくろの沢庵漬はうまかった。市販のものとは味が違う。自慢の一品だった。沢庵を漬ける人は少なくなっただけだが私は挑戦し続けている。大根を縛り吊し干している景色もいい。

東條 有克

絹さやインゲンの芽が出てもよい十一月、畑は猫に荒らされることが続く。粒剤を散布しても竹串を大量に刺しておいてもやられる。獣害に遭っている農家を思うと諦めるしかないか。

あの方からの

 たより
 会員の今
 思いや願い……………

成田 力

「アレ」をマスターすれば人生が変わる。多くのユーザーが口をそろえて言う。ならば私も挑戦してみるか。時間は豊富だ。英会話の話である。

星 憲隆

「断捨離」どころか、今年には会津ユネスコや会津児童園にも関わってしまった。しかし、「中東やウクライナ」等で無力感ばかり。どうか皆様方の心からのお力添えをお願い申し上げたい。

星 文雄

金婚を迎えた褒美に関西方面を旅行した。世界遺産の原爆ドーム、安芸の宮島、端正な佇いの姫路城を巡り、錦帯橋、山頂に建つ岩国城まで足を伸ばした。二人で気ままな珍道中をしてきた。

町田 壽章

先日、大学の同級会に参加してきました。高齢者の仲間入りを果たした者同士、昔話に花が咲きました。十年後の再会を堅く誓った楽しいひとときでした。

湯浅 英生

今、干し芋作りにはまっています。干し芋に適した品種、蒸し方、切り方、天日干しの条件等を研究しながら、手作りならではのねっとりした食感と素朴な甘さを楽しんでいます。

星 幹男

群馬県の「中之条研究」は、歩行と病气予防の関係について「一日八千歩、うち二十分の速歩きで生活習慣病の予防が可能」と。歩行の黄金律を指標にして、八十路の坂も闊歩、闊歩。

渡部 隆一

ミュージカル「生きる」を観劇した時の事。二幕開始前突然拍手が起き、二階席に上皇・上皇后様が現れた。一生懸命手を振る上皇様を支える上皇后様のお姿に劇と相まって感動した。

大越 辰哉

昨年の猛暑の中、我が家の畑作物はまずまずの出来でした。しかし、十二月。外見は立派なのに、高温障害のためかブロッコリーの収穫はほぼゼロ。温暖化の怖さを実感しました。

菅家 敏之

大病を患いましたが、お陰様で完全寛解です。難敵のウイルス対策は、楽しく身体を動かし免疫力の強化を図ることという指導を受け、スキーやゴルフで楽しい時間を過ごしています。

事務局コーナー

おめでとうございます

◆令和五年度「賀寿」

(満九十五歳)を受けられた会員

松本 肇 様

昭和三年十二月十四日生



松本肇先生への賀寿伝達を終えて教員時代の話になりました。県大会で教育実践の成果を発表したこと、僻地研究発表校として同僚と共に研究し、成果を披露したことを懐かしそうに話されました。今の楽しみを聞くと、月一度の碁会に参加することで、毎日腕を研かれています。先生は生き生きとした姿に元気をいただきました。

渡部 光 昭 様

昭和四年一月九日生

渡部光昭先生の都合で賀寿の伝達はできませんでしたが、電話口から元気な声をお聞きしました。健康の秘訣は①無理をしない②風邪をひかない③転ばないことと答えられました。先生の楽しみを聞くと「新聞投稿すること」がなよりの楽しみと答えられました。

◆高齢者叙勲で受章された会員

瑞寶雙光章 山ノ内不二彦様

令和5年8月1日

瑞寶雙光章 山野邊 喜勝様

令和5年12月1日

瑞寶雙光章 福田 試作様

令和6年1月1日

◆功績により表彰された会員

社会教育功労者表彰

森 武久様

◆ 定年退職について

役職定年を退職とみなし六十歳を迎えた校長先生方には、例年どおり、本会への加入を進めることになりました。

生前のご活躍に感謝申し上げますとともに謹んで冥福をお祈り申し上げます。

田 中 靖 則 様

令和5年8月3日ご逝去

栗 原 孝 明 様

令和5年10月22日ご逝去

馬 場 純 様

令和6年1月14日ご逝去

酒 井 淳 一 様

令和6年1月23日ご逝去

◆域内市町への要望訪問

・ 期日 八月二十一日(月)

・ 訪問先

会津若松市教育委員会

磐梯町教育委員会

猪苗代町教育委員会

・ 訪問者

支部長、副支部長

幹事長、庶務部長

(要望内容)

「本県学校教育の復興・充実のため、国及び県との連携の下、将来を見据え、教育諸条件のさらなる整備・充実に努めていただきたい」等について要望してきました。

◆前号以降の主な活動

○第二回幹事会

・ 七月十五日(土)

於 河東公民館

○猪苗代中学校見学

・ 八月三日(木)

○第一回理事会

・ 八月十七日(木)

於 河東公民館

○十七文字ふれあい支援事業

↳ 第一次審査

・ 九月二十二日(金)

於 会津若松合同庁舎

○第三回幹事会

・ 十月三日(火)

於 河東公民館

○憩いの集い

滝沢浄水場見学

・ 十月十日(火)

○会津方部連絡会

・ 十一月一日(水)

於 御蔵入交流館

○現職・退職校長会

教育懇談会

・ 十一月十八日(土)

於 ルネッサンス中の島

○新年会

・ 一月十八日(木)

於 ルネッサンス中の島

○第四回幹事会

・ 三月三日(日)

於 河東公民館

編集後記

桃の節句の良き日に「きたあいづ84号」を、福島県立猪苗代高等学校校長滝田勝彦様を始め、多くの会員の皆様方に玉稿をお寄せいただき発行することができました。心より御礼申し上げます。

さて、今年の干支は、辰。辰年は、大きな変化が起こることが多いといわれています。会津人には心痛い、戊辰戦争(一八六八年)。今年元日に起きた能登半島地震。亡くなられた方々のご冥福と被災地の日も早い復興を祈ります。

青函トンネル・瀬戸大橋開業(一九八八年)。前回の東京五輪・東海道新幹線開業(一九六四年)。国家プロジェクトが始まることが多いのも辰年です。

辰は、十二支の中でも最も縁起のよい干支でもあり、あらゆる物事を上昇させ、よい方向に導いてくれる力があるとのこと。辰の力で、世界に平和と安寧が訪れますようにと祈らずにはいられません。

支部報も、辰年の変化にあやかり、イラストを一部変更。気付かれましたか？